

第2回 横浜市鶴見区地域ケアプラザ指定管理者選定委員会 議事録	
日 時	令和5年4月26日(水) 午前10時00分から11時35分まで
開 催 場 所	鶴見区役所6階8号会議室
出 席 者	<p>【選定委員会委員】</p> <p>委員長 峯尾 武巳 (特定非営利活動法人介護の会まつなみ理事長 神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部社会福祉学科前教授)</p> <p>委員 石井 キヨ子 (鶴見区社会福祉協議会ボランティア分科会会長)</p> <p>齊藤 達之 (鶴見区地域活動ホーム「幹」施設長)</p> <p>清水 幸夫 (税理士)</p> <p>富樫 あかね (鶴見区地域子育て支援拠点「わっくんひろば」前施設長)</p> <p>日向 邦夫 (鶴見区老人クラブ連合会会長)</p> <p>皆川 慈保 (鶴見区民生委員・児童委員協議会副会長)</p> <p>宮野 昌夫 (寺尾第二地区自治連合会会長)</p> <p>【事務局】</p> <p>鶴見区福祉保健センター長 市川 裕章</p> <p>鶴見区福祉保健センター担当部長 中村 隆幸</p> <p>鶴見区福祉保健課長 藤牧 武之</p> <p>鶴見区高齢・障害支援課長 高橋 陽子</p> <p>鶴見区福祉保健課事業企画担当係長 末吉 直登</p> <p>鶴見区福祉保健課事業企画担当 島田 達也、大竹 遥</p>
欠 席 者	無し
開 催 形 態	公開、ただし一部非公開(応募団体の面接及び質疑応答は、面接審査を受けている団体以外の応募団体を除き公開)(傍聴者なし)
議 題	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 鶴見福祉保健センター長挨拶 3 面接審査実施にあたって、選定委員への事前説明 4 応募団体の面接審査(プレゼンテーション及び質疑応答) 5 採点に関する委員間での意見交換 6 各委員による採点 7 指定管理者の候補者(以下「指定候補者」という。)の選定
決 定 事 項	<ol style="list-style-type: none"> 1 横浜市馬場地域ケアプラザの指定候補者を社会福祉法人秀峰会とし、横浜市鶴見区長に報告することを決定。 2 議事録の確認は委員長に一任することを決定。
議 事	<p>1 審査に係る確認</p> <p>事務局から、公募の結果、1団体から応募書類の提出があった旨を報告するとともに、次の2点について確認した。</p>

(1) 財務評価及び応募団体の予算項目等について

(事務局)

- ・本市（健康福祉局）が行った応募団体の財務評価委託の結果を報告。
- ・資格要件について、「暴力団又は暴力団経営支配人等ではないこと」に関して、神奈川県警に照会した結果、該当しないとの回答を受けた旨や市税納付状況等の確認を行った結果、資格要件を満たしている旨を報告。

(2) 面接審査の進め方の確認

(事務局)

- ・面接審査の全体の流れ、質疑応答の流れ、最終審査の流れについて説明。

2 応募団体によるプレゼンテーション及び面接審査

ア プレゼンテーション

団体から、団体の概要、事業計画等について説明

イ 主な質疑応答

(委員) 設備借入金が 2019 年から 2020 年にかけて大幅に増加しているが、その理由はなぜか。

(団体) 特別養護老人ホームを開設したため、開設費用として借入を行った。

(委員) コロナ禍で他の事業と同様に子育て世代に向けた事業の開催が難しい状況があったと思うが、今後の事業展開はどのように考えているのか。また、ケアプラザで子ども関連の事業を実施していることの周知は難しいと思うが、情報の発信についてはどのように考えているのか。

(団体) 今後は子育て世代のニーズ調査等も行い、子ども関連の事業には力を入れていきたいと考えている。例えば、子どもたちがケアプラザを訪れるような事業を検討しており、先日も近隣小学校の児童が地域ケアプラザを訪れる事業を実施した。地域ケアプラザを子どもたちに知ってもらうことが、親世代も巻き込んだ事業に繋がると考えるため、色々な事業を検討したい。広報については、紙媒体だけではなく、インターネットでの発信が必要だと考えているが、現在はあまり実施できていない状況である。今後の課題として受け止めたい。

(委員) 地域生活支援拠点連携会議の先行実施を通じて、得られた成果や課題はあるか。

(団体) 成果としては障害関連機関との繋がりが強くなったことが挙げられる。今後、様々な支援や事業を行うにあたり、他の地域ケアプラザより、先に進んだ取り組みが行えるのではないかと考えている。課題としては、障害に関する相談件数が少ないことが挙げられるので情報の周知を行っていきたい。

(委員) 様々な場面で担い手不足が課題になると思うが、地域ケアプラザとして、その課題に対しどのように取り組もうと考えているか。

(団体) いわゆる現役世代の担い手不足が顕著なため、まずは高校生などの若い人からアプローチをするような取り組みを行っている。子どもが動くとその親である現役世代も取り込むことができると考えている。

(委員) ボランティア活動を行いたいと思っている方の話を聞いて、ボランティアの提案をすることや、ボランティア団体に繋ぐことができるような取り組みは行っているのか。

(団体) 地域ケアプラザの窓口でボランティアを行いたいと声をかけてもらうことがある。その際はボランティアを希望する方の話を聞いて、ボランティア団体に繋げている。橋渡し役の地域ケアプラザが上手く繋げることができないと、ボランティアをやりたいという話が立ち消えになってしまうこともあると思うので、情報を丁寧に取り扱いながら、対応することを心がけている。

3 指定候補者の選定

プレゼンテーション及び面接審査並を受けて評価を行い、各委員の評価結果を集計する。

	応募団体	評価得点／満点
指定候補者	社会福祉法人 秀峰会	1,554点／1,800点

指定候補者の得点は、最低制限基準を満たしているため、選定委員会として社会福祉法人秀峰会を横浜市馬場地域ケアプラザの指定候補者として選定することを決定する。

(審査講評)

- ・地域との連携が非常に良好であり、協力しながら、様々な事業の実施ができている。
- ・高齢の方、障害のある方、子どもといった様々な人が関わる地域ケアプラザという施設において、それぞれの分野において、力を入れて事業を実施していることがうかがえた。
- ・地域ケアプラザにおける様々な課題を把握して、それを改善できるような計画を立てながら、今後も施設運営を行っていくことを期待したい。

資 料
・
特 記 事 項

1 資料

- (1) 第2回選定委員会タイムスケジュール
- (2) 評価基準及び審査方法について
- (3) 横浜市鶴見区地域ケアプラザ指定管理者選定委員会委員名簿
- (4) 横浜市鶴見区地域ケアプラザ指定管理者選定委員会運営要綱
- (5) 横浜市鶴見区地域ケアプラザの指定管理者の候補者の選定等に関する要綱

2 特記事項 特に無し